
大学院システム情報工学研究群・知能機能システム学位プログラムにおける
「社会人のための博士後期課程早期修了プログラム」履修案内

(注) 以下で説明する内容は、「社会人のための博士後期課程早期修了プログラム（早期修了 P）」です。早期修了 P を履修しない博士後期課程においても、修了要件を満たして審査に合格すれば「早期修了」は可能です。ここで取り扱う「早期修了 P」と一般課程における「早期修了」とは異なるので、混同しないように注意をお願いします。

【I 社会人のための博士後期課程早期修了プログラム履修審査】

1 社会人のための博士後期課程早期修了プログラム履修開始要件（修了要件ではありません）

社会人のための博士後期課程早期修了プログラム（以下、早期修了プログラムという）を履修するためには、履修審査時に下記の要件を満たしておく必要があります。（修了要件ではありません）

- (1) 査読付き学術雑誌論文 2 編以上（1 編は査読付き国際会議論文でも認められる場合がある。原則として筆頭著者であること）
- (2) 国際会議口頭発表 1 件以上（原則として筆頭著者であり、自身が発表したもの。ポスター発表を含む）。なお、国際会議発表は査読がなくても構いません。

2 社会人のための博士後期課程早期修了プログラム履修審査手順

- (1) 事前に希望する指導教員と面談した上で（決まっていない場合には早めに学位プログラムリーダーにご相談ください）、
- (2) 8 月期（2020 年度は 10 月期）または 2 月期において社会人特別選抜により博士後期課程に合格し、
- (3) 早期修了プログラムの履修を希望する方は、
- (4) 次の 4 種類の書類
 ＜A 履修申請の要約＞
 ＜B 研究業績リスト＞
 ＜C 論文別刷等附属書類＞
 ＜D 達成度自己点検シート＞
を提出することによって、早期修了プログラム履修審査（以下、履修審査という）の申請ができます。書類提出時期と提出先については、システム情報工学研究群 HP に掲載されている「早期修了プログラム履修審査に係る日程表」で確認して下さい。書類提出前に、希望する指導教員と書類の内容について相談して下さい。
- (5) この履修審査は、書類及び面接によって審査を行います。
- (6) 履修が認められたら早期修了プログラム履修生として入学します。
- (7) 履修審査に合格しなかった場合でも、一般課程学生として入学することができ、知能機能システム学位プログラムの修了要件を満たした時点で、早期修了プログラムによらない早期修了も可能です。

3 早期修了プログラム履修審査のために準備する書類

＜A 履修申請の要約＞

下記の項目を A4 サイズ 1 ページで簡潔にまとめてください。

- (1) 氏 名（ふりがな）
- (2) 所属・部署・職名
- (3) 連絡先（郵便物送付先、固定電話番号、携帯電話番号、FAX 番号、e-mail address）
- (4) 希望する指導教員名
- (5) 修士論文作成時の専門分野（修士号保有者のみ）
- (6) 研究内容と業務内容との関わり（業務内容と無関係の研究内容でも構いません）
- (7) その他参考となる事項（査読付き学術雑誌論文数、査読付き国際会議論文数、国際会議で口頭発表した件数）

<B 研究業績リスト>

下記の区分に従って作成してください。様式自由で、ページ制限は特に設けていません。記入例があるので参照して下さい。

1. 査読付き学術雑誌論文 なお後述の<C 論文別刷等>で添付する論文番号に○印を付してください
2. 査読付き国際会議論文 なお後述の<C 論文別刷等>で添付する論文番号に○印を付してください
3. 国際会議口頭発表 なお後述の<C 論文別刷等>で添付する論文番号に○印を付してください
4. 解 説
5. 報 告（口頭発表・ポスター発表等）
6. その他諸報告
7. 社会的貢献・活動
8. 受賞・表彰
9. 特許・発明
10. その他特記事項

<C 論文別刷等付属書類>

- (1) 査読付き学術雑誌論文 2 編（うち 1 編は査読付き国際会議論文でも認められる場合がある。原則として筆頭著者であること）の別刷またはコピー 3 編（採録可とされていれば未刊行のものでも構いません。その場合は、採録通知と原稿を添付して下さい）。
- (2) 国際会議口頭発表 1 件（原則として筆頭著者であり、自身が発表したもの。ポスター発表を含む）の発表の概要が分かる著者・発表者氏名・発表題目等が記載されたプログラム資料。会議論文が発行されている場合は、その別刷またはコピー。
- (3) その他必要と思われる書類。

<D 達成度自己点検シート>

- (1) 達成度自己点検シートでは、下記の 8 項目のコンピテンス（学位授与時に学生が備えているべき知識・能力等）について、具体的、客観的かつ簡潔に記載することで、現在の自分自身のレベルが博士の学位にふさわしいレベル又は修士の学位レベルと同等以上であることを主張するようになっています。記入例があるのでそれを参照して下さい。各項目とも、500 文字以下で記入して下さい。
- (2) 早期修了プログラム履修審査申請の段階では、原則として汎用コンピテンス 1、4、5、学位 P コンピテンス 1、2 については "A"（博士の学位にふさわしいレベル）であることが主張できることを求めています。それ以外の汎用コンピテンス 2、3、学位 P コンピテンス 3 については、申請の段階では、"B"（修士の学位レベル）以上を主張できれば十分ですが、博士の学位にふさわしいレベルであることを主張しても差し支えありません。入学後の修学によって全ての項目についてそのレベルを高め、課程修了段階で全ての項目が博士の学位にふさわしいレベルになっていることが必要になります。
- (3) 達成度自己点検シートにおけるコンピテンス：

汎 用 コ ン ピ テ ン ス	1	「知の創成力」 （未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力）	① 新たな知の創成といえる研究成果等があるか ② 人類社会の未来に資する知を創成することが期待できるか
	2	「マネジメント能力」 （俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力）	① 重要な課題に対して長期的な計画を立て、的確に実行することができるか ② 専門分野以外においても課題を発見し、俯瞰的な視野から解決する能力はあるか
	3	「コミュニケーション能力」 （学術的成果の本質を積極的かつわかりやすく伝える能力）	① 異分野の研究者や研究者以外の人に対して、研究内容や専門知識の本質を分かりやすく論理的に説明することができるか ② 専門分野の研究者等に自分の研究成果を積

			極的に伝えるとともに、質問に的確に答えることができるか
	4	「リーダーシップ力」 (リーダーシップを発揮して目的を達成する能力)	① 魅力的かつ説得力のある目標を設定することができるか ② 目標を実現するための体制を構築し、リーダーとして目的を達成する能力があるか
	5	「国際性」 (国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲)	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する高い意識と意欲があるか ② 国際的な情報収集や行動に十分な語学力を有するか
学位 P コン ピ テ ン ス	1	「研究力」 (知能機能システム分野において先端的な研究課題を設定し、自立して研究を遂行し独創的な成果を上げて国際的に発表する能力とそのための高度な技術)	① 知能機能システム分野の先端的な研究課題を適切に設定でき、その研究を行うための高度な技術はあるか ② 知能機能システム分野の先端的な研究を遂行して独創的な成果を上げることができるか ③ 国際会議等において英語で研究成果を発表し議論することができるか
	2	「専門知識」 (工学分野の研究者または高度専門職業人にふさわしい知識と学力、および知能機能システム分野における先端的かつ高度な専門知識と運用能力)	① システム情報工学分野の専門知識を幅広くもつか ② 知能機能システム分野における先端的かつ高度な専門知識を修得し、それを研究や問題解決のために運用できるか
	3	「倫理観」 (工学分野の研究者または高度専門職業人にふさわしい倫理観と倫理的知識、および知能機能システム分野に関する深い倫理的知識)	① 研究者倫理および技術者倫理について十分に理解し遵守しているか ② ヒトを対象とする研究などに関する倫理的知識をもち、研究に必要な手続きを十分に理解し実施することができるか

4 早期修了プログラム履修審査の内容について

(1) 書類審査

提出された資料を基に、達成度の項目別評価を行います。

(2) 面接審査

複数の面接員により面接審査を行います。面接審査の細部については、学位プログラムリーダーより示されます。なお、具体的な評価内容については、『『達成度評価シート』記載例』を参照して下さい。

【Ⅱ 履修が承認された場合の学修について】

1 履修方法と修了要件

知能機能システム学位プログラム（博士後期課程）【履修方法・修了要件】に準じますが、概ね以下の通りです。

知能機能システム関連科目の専門科目うち、下記の必修科目 10 単位及び同専門科目から選択必修を含む 2 単位以上を履修し、合計して 12 単位以上を修得してください。

(1) 必修科目

- ・ 知能機能システム特別研究 A (4 単位)
- ・ 知能機能システム特別研究 B (2 単位)
- ・ 知能機能システム特別研究 C (2 単位)
- ・ 知能機能システム学術雑誌論文発表演習 I (2 単位)

選択必修（下記 2 科目のいずれかは必ず修得すること）

- ・ 知能機能システム学術雑誌論文発表演習 II (2 単位)
- ・ 知能機能システム国際会議論文発表演習 (2 単位)

(2) 修了要件は、計 12 単位以上を修得し、博士論文の審査及び最終試験に合格することです。

(3) 前項(1)に示す科目等を履修することによって、予備審査時には、達成度自己点検シートの汎用コンピテンス 1～5、学位 P コンピテンス 1～3 すべての項目について、「A」(博士の学位にふさわしいレベル) である必要があります。

2 中間審査について

学修を円滑に進めるため、本プログラム履修開始から 3～4 ヶ月経過した時点で、学修の進捗について中間審査を行います。中間審査時には、履修審査時に提出した「達成度自己点検シート」と同じ形式の「中間審査時達成度自己点検シート」を提出し、担当教員の指導を受けます。

3 予備審査について

予備審査の申請にあたって、「予備審査時達成度自己点検シート(履修審査時に提出した「達成度自己点検シート」と同じ形式で記述)」では、汎用コンピテンス 1～5、学位 P コンピテンス 1～3 すべての項目について、入学後何を学び、「A」(博士の学位にふさわしいレベル) に達したかを述べます。なお、受講すべき科目数と受講内容については、各学生により異なる場合がありますが、いずれも達成度評価に基づき判定しますので、担当教員の指示に従うことになります。

予備審査時には、次の 2 点を審査します。

(1) 汎用コンピテンス 1～5、学位 P コンピテンス 1～3 すべての項目について「A」(博士の学位にふさわしいレベル) 以上であることの確認

(2) 学位論文の予備審査

予備審査に合格した者は、学位論文に着手することを認められます。

【参 考】 早期修了プログラム達成度評価項目と修了時の達成度の目安

汎 用 コ ン ピ テ ン ス	1	「知の創成力」 (未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力)	①新たな知の創成といえる研究成果等があるか ②人類社会の未来に資する知を創成することが期待できるか
	2	「マネジメント能力」 (俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力)	①重要な課題に対して長期的な計画を立て、的確に実行することができるか ②専門分野以外においても課題を発見し、俯瞰的な視野から解決する能力はあるか
	3	「コミュニケーション能力」 (学術的成果の本質を積極的かつわかりやすく伝える能力)	①異分野の研究者や研究者以外の人に対して、研究内容や専門知識の本質を分かりやすく論理的に説明することができるか ②専門分野の研究者等に自分の研究成果を積極的に伝えたとともに、質問に的確に答えることができるか
	4	「リーダーシップ力」 (リーダーシップを発揮して目的を達成する能力)	①魅力的かつ説得力のある目標を設定することができるか ②目標を実現するための体制を構築し、リーダーとして目的を達成する能力があるか
	5	「国際性」 (国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲)	①国際社会への貢献や国際的な活動に対する高い意識と意欲があるか ②国際的な情報収集や行動に十分な語学力を有するか
学 位 P コ	1	「研究力」 (知能機能システム分野において先端的な研究課題を設定し、自立して研究を遂行し独創的な成果を上げて国際的に発表する能力とそのための高度な技	①知能機能システム分野の先端的な研究課題を適切に設定でき、その研究を行うための高度な技術はあるか ②知能機能システム分野の先端的な研究を遂行し

ン ピ テ ン ス		術)	て独創的な成果を上げることができるか ③国際会議等において英語で研究成果を発表し 議論することができるか
	2	「専門知識」 (工学分野の研究者または高度専門職業人にふさわ しい知識と学力、および知能機能システム分野にお ける先端的かつ高度な専門知識と運用能力)	①システム情報工学分野の専門知識を幅広くも つか ②知能機能システム分野における先端的かつ高 度な専門知識を修得し、それを研究や問題解 決のために運用できるか
	3	「倫理観」 (工学分野の研究者または高度専門職業人にふさわ しい倫理観と倫理的知識、および知能機能システム 分野に関する深い倫理的知識)	①研究者倫理および技術者倫理について十分に 理解し遵守しているか ②ヒトを対象とする研究などに関する倫理的知 識をもち、研究に必要な手続きを十分に理解 し実施することができるか